

## 議事要旨

- 1 メール審議期間：令和2年3月25日（水）～27日（金）正午
- 2 メール審議対象構成員人数：29名
- 3 審議結果：承認26名、未回答3名  
 以上多数決により、審議内容は「承認」されました。
- 4 質問意見記述及び事務局による対応結果は下欄のとおり。

| 構成員からのご意見   | 対応結果  |
|---|---|
| <p>&lt;質問&gt;<br/>           【北海道経済連合会 菅原構成員】<br/>           ・報告書の4ページ目にある《検討項目（作業班）と検討結果の方向性》のうち、<br/>           ④農業ブロードバンドの整備推進（農家世帯における光ファイバの整備率を算出）<br/>           R1年度に「フォローアップ」とありますが、具体的なフォローアップの内容について、ご教示願います。</p> | <p>（事務局から電話により説明）<br/>           昨年度、作業部会を設けて示した推進方策のひとつである支援策の活用について新冠町、岩見沢市、上士幌町が「高度無線環境整備推進事業（総務省）」を活用することになったため、現地での情報収集を行いました。また根室地区、留萌地区の農業関係者と面会し意見交換を行っています。報告書の中で「フォローアップ」という項目を立ててはませんが、得た情報を取りまとめに反映しています。</p> |
| <p>&lt;意見&gt;<br/>           【北海道開発局 津垣構成員】<br/>           ・5P「労働者不足や生産性向上等、北海道農業が抱える課題を解決するため、農業のロボット化を…」の文頭に、「豊かな自然と広大な土地を活かした我が国最大の食料供給基地として、安全・安心で良質な食料を安定的に生産できる北海道の強みを更に発展させるとともに、」を追記（※肯定的な状況も併せて記載した）</p>           | <p>本懇談会の目的（農畜産物の多くが生産量全国一位となっており、我が国の食料の安定供給に重要な役割を果たしている。）を考慮し、構成員と事務局で調整の上、報告書に反映。</p>  |
| <p>&lt;意見&gt;<br/>           【北海道開発局 津垣構成員】<br/>           ・5P「ロボット農機の監視制御や農業データを有効活用するための通信手段である「無線」を使ったシステム…」の前に「農地の基盤整備の推進とあわせ、」を追記（※一体的に整備することが理想）</p>  | <p>スマート農業の普及・促進のために、農地の基盤整備も合わせて推進する必要があることから、構成員と事務局で調整の上、報告書に反映。</p>  |

|  |  |
|--|--|
| <p>&lt;意見&gt;<br/> 【北海道開発局 津垣構成員】</p> <p>・5P 「自治体等が、情報通信基盤の整備を行う場合は国の支援制度等の活用を検討」の後ろに「するとともに、国も補助事業の制度や各種情報を自治体等に積極的に提供する必要がある。」を追記。（※情報提供も必要不可欠）</p>  | <p>補助金等支援を行う国と自治体が情報を共有して一体的に取り組むことが重要であることから、構成員と事務局で調整の上、報告書に反映。</p>                     |
| <p>&lt;意見&gt;<br/> 【北海道開発局 津垣構成員】</p> <p>・21P 「自治体、農業団体等の整備主体は、ラストワンマイルについては、・・・である。」は「自治体、農業団体等の整備主体は、補助事業や河川・道路用情報 BOX 等の利用も視野に入れた光ファイバの整備を積極的に行うべきであり、ラストワンマイルについては、可能な限りコストのかからない無線ネットワーク（通信システムリストを参照）の適切な手段を検討する必要がある。また、国も補助事業の制度や各種情報を自治体等に積極的に提供すべきである。」といった表現の方が適切であると考え（※「マイクロ」と「マクロ」が混在、まずは「マクロ」ではないか）</p> | <p>光ファイバ等のインフラ整備（マクロ的施策）とラストワンマイルのための無線システム整備（ミクロ的施策）の順序を変えた表現に修正。構成員と事務局で調整の上、報告書に反映。</p> |